

私が思う「理科大」

私が本学に入學して早くも半年以上が過ぎ、いつの間にかこの大学が好きなようになってきた。今回はそんな本学がどのような大学であるかを紹介する。そして、本学をあまり知らない方にはこの学校の雰囲気を知ってもらい、本学の学生には共感してもらえればうれし。

本学は1881年、当時東京大学を卒業した若き理学士21名が「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」との建学精神を掲げ開設した東京物理学講習所に端を発する。その精神の下、多くの卒業生が教育に携わり、理学の普及に貢献してきた。現代においてもその伝統は残っており、本学を卒業して教員になる学生は多く、昨年度の教員就職者は公立私立を合わせて163名、一昨年度は183名となっており、この数字は日本でもトップクラスだ。また現在の教育研究理念として「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科

学と技術の創造」を掲げ、自然と人間の調和的かつ永続的な繁栄への貢献を目指す教育と研究を行っている。大量消費社会の行き詰まりが見えてきた昨今、調和と永続をうたうこの理念からは、科学と社会に対する真剣な姿勢が見取れる。これからの社会の中で我々理系としての役割を受け止めて、理学の知と工学の知をもって社会貢献への道を探っていくというのである。先日世界に先駆けて本学に光触媒国際研究センターが開設した経緯にも、こういった研究理念の存在が少なからず関係していたのではないだろうか。

さらに、創立当時から教育方針として、真に実力をつけた者のみ卒業させるといふ「実力主義」を掲げている。本学が他大学に比べ留年率が高いのは有名な話であり「日本の大学は入るの難しが入るの楽」などと言われている。そのため入学してからの学生の実力を伸ばす大先輩や研究者などの各界で活躍する優秀な卒業生を多く輩出している。また国家公務員総合職試験(旧国家公務員1種試験)合格者では全私立大学中3位を誇っており、昨年度は56名の合格者を出した。また理工系総合大学である本学では多くの学生が実験の授業を受けている。そして毎回その内容をレポートにまとめて提出するので、毎日あちらこちらでレポートという言葉が飛び交っているのも本学の特徴と言えよう。留年率が高くレポートや課題の出題が多く、評価も厳しい本学では、学生同士が互いに助け合っ

理科大生紹介

「研究漬けですが、楽しい毎日です。」

理学部第一部化学科4年 田所研究室 古家義之さん

て印象を受ける。どのような実験を行ったか、その結果はどうだったか、レポートはどのくらいか、活発に意見や情報を交換している。また授業で分からないところは、教授はもちろんのこと友人や先輩に積極的に尋ね、質問をすれば聞いたこと以上に詳しく教えてくれる。

本学の学生にとって、試験を突破するために過去問は非常に役立つアイテムである。サークルなどに入ると先輩から過去問をもらうこともでき、もらった過去問は友達と共有することも多い。そしてその恩恵を受けた人は、次に入学してくる後輩のために過去問を保存する伝統が受け継がれている。勉強が厳しい本学には皆が一丸となって頑張っているという空気が存在していて、とても温かいところであると感

ビューを行うのではなく、本学の一学生への取材を行うこととした。

取材をさせていただいたのは、理学部第一部化学科の田所研究室に所属する4年生の古家義之さんだ。平均的な一週間のスケジュール

い大学生活を送るために、入学したらまず自分から話しかけて友達を作る、サークルに入るなどして、心強い味方を増やしていくことが肝要だ。本学への受験を考えている受験生はぜひ覚えておいて欲しい。私たちは毎年新入生を心待ちにしている。

ここまで、本学は留年率が高く、厳しい大学だということを紹介したが、真面目に授業を受けている留年する学生は少ない。厳しいからこそ真面目な学生が多く、助け合いの精神が養われているため、ここでは一生の友がでるだろう。真面目だからこそ本気で遊び、本気で勉強することができ、毎日顔を合わせ、冗談を言っている。ふざけ合っている、合えば、今度は真剣な顔つきで真面目な議論を交わす。東京理科大学はそんな場所である。



▲ 実験を行う古家さん

たされた装置で実験している。平日が5日間休みなしでの研究のため、休日は息抜きのために思う存分遊ぶのだろうと思っただが、そのようないことはなかった。土曜日朝から夕方までアルバイトをしているため、実際に自由な時間を確保でき

さえ、研究室に泊まりこみの研究で潰れることがあるというのだ。その代わり、用事のない日曜日は朝から趣味のテニスやカラオケなどをして普段の疲れやストレスを発散しているという。古家さんは大学院に進み、来年以降も研究を続けようと思っただ。

ここまで研究漬けの日々を送っているというお話を聞いて、その生活はつらいのではないかと尋ねたが、古家さんの答えは意外なものだった。「研究室に入ってから、世界でまだ誰も作ったことがない新規化合物の合成などです。自ら色々勉強し、考えながら実験していくので、全然苦にはならないし、むしろ実験の時間が足りないと思うくらい前向きに研究室の生活を送っています」と語った。3年生まではやらされているような実験に、面倒だと感じることもあったという。しかし研究室に入ることから新たな目標を見つけ、そのために今実験に打ち込む古家さんは、学生なら誰もが憧れる姿だろう。

ルを尋ねたところ、月曜日から金曜日までのほぼ毎日、朝から夕方まで研究室で実験をしているという。朝は10時に研究室に入ってから、熟講師のバイトをしている水曜日以外は19時まで研究室にこもっている。一人で木曜日にいたっては21時まで学内にいるという忙しさだ。

古家さんの所属する研究室での具体的な研究対象は、金属と有機物を結合させて半導体となる化合物である。有機物は普通電気を通さないのだが、現在扱っている分子ではナトリウムやカリウム、銅といった金属に結合させることで半導体としての性質をもつようになり、電気を流すことが可能になるというのだ。そのような分子は空気中で不安定であるため、グローブボックスという、空気がほとんど入っていない、アルゴンというガスで満たされた装置で実験している。

きるのは日曜日だけなのだという。しかしその日曜日

月	火	水	木	金	土	日
登校	登校	登校	登校	登校		基本自由
10~19 研究室	10~19 研究室	10~17 研究室	10~21 研究室	9~19 研究室	9~20 アルバイト 塾講師	忙しい時は研究室に泊まることも
帰宅	帰宅	18~22 アルバイト 塾講師 帰宅	帰宅	帰宅		

▲ 古家さんの1週間のスケジュール

東京理科大学 3年生、修士1年生のみなさん!

会員登録は お済みですか?

リクナビ 2015
インターンシップ & キャリア

6月1日サイトオープン! 会員登録スタート!

就活準備のためのお役立ちコンテンツが満載!

リクナビ2015 検索

<http://job.rikunabi.com/2015/>